

北海道林産技術普及協会は今年で70周年を迎えます。

ウツデイ エイジ

◎木材の研究と普及◎ 監修：林産試験場



人が人に出会い, 風景に出会う場所をつくる
ルピシアニセコヴィレッジ新社屋

ウッドエイジ

木材の研究と普及
第72巻6号・通巻838号

目次

人が人に出会い、風景に出会う場所をつくる ルピシアニセコヴィレッジ新社屋……………	1
町産トドマツCLTを用いた枝幸町認定こども園……………	4
木材利用の試験研究機関に勤務して⑤ ～寒冷地住宅とカビ・ダニの後編～……………	7

●特集『令和5年(2023年)北海道森づくり研究成果発表会』パートI

※令和5年(2023年)北海道森づくり研究成果発表会について…	9
※ICTハーベスタで造材した丸太が流通するには ～製材工場の意向と実態～……………	10
※森町産人工林材を木造公共建築物で活用するための取組 その1 森町産人工林材3樹種の材質比較……………	11
※森町産人工林材を木造公共建築物で活用するための取組 その2 大空間を可能にする平行弦トラスの開発……………	12
※体育館のフローリングが割れにいたる原因を調査する…	13
※道産トドマツ・カラマツ材を用いた 難燃薬剤処理木材の白華防止に対する取組……………	14
※出産前の乳牛に適した木質粗飼料の開発と検証……………	15
※小瀧武夫さんのこと……………	16
※行政の窓(道庁本庁舎1階ロビー木質化による効果について)…	17
林産試ニュース・北森カレッジニュース……………	18

※：林産試日より2023年6月号からの転載
(地独)北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場 承諾



ルピシアニセコヴィレッジ新社屋 虻田郡ニセコ町

ルピシアニセコヴィレッジ新社屋は、羊蹄山が一望できるニセコ町にあり、道産カラマツの構造用集成材とCLTを使用した木造建築物です。風土に根ざしたエコフレンドリーな建築であり、雪庇や吹き溜りを生じにくい形状や風通しの良い設計を採用しています。

表紙の写真は、中庭から見た軒の様子です。このような半径16.5mの円形平面により、内外の空間に円環状の一体感を持たせています。詳細は、本号の「人が人に出会い、風景に出会う場所をつくる」をご覧ください。